

# ぼうさい通信 Vol.15



熊本県立湧心館高等学校 平成30年10月発行



山口県で行方不明になっていた よしきちゃん を救出した **尾島春夫さん(78歳)**が今大注目されています。私も何度もテレビで尾島さんのお話を伺っていますが、話を聞くと、尾島さんのお人柄を知るほどに尊敬の念が増していきます。**スーパーボランティア**と呼ばれる尾島春夫さんは、今回の

捜索だけでなく、2年前の大分県佐伯市で21時間もの間行方不明になっていた2歳の少女の救出や、西日本豪雨、熊本地震にも駆けつけボランティア活動をされていました。東日本大震災の際にも『**思い出探し隊**』として、津波で流された誰かの思い出の品を拾い集め、持ち主の元に返すという活動をされたそうです。実は東日本大震災の時から大好きなお酒をやめ、**最後の仮設住宅が解体されたら浴びるようにお酒を飲む**と決めているそうです。どこまでも相手の気持ちを考え、全て自己責任の無償で活動されている尾島春夫さんの座右の銘は「**朝は必ず来るよ**」という言葉だそうです。地震や豪雨の被害に遭われた方々に、「**明日も朝が来るから**」と励ましの言葉をかけ続け、被災者の方々に勇気を与えたというエピソードもあります。

## 「尾島春夫の人生に悔いなし」

尾島さんは65歳まで務めた魚屋を、65歳の誕生日を迎えて辞め、**今までお世話になった社会に少しでも恩返しがしたい**との思いからボランティア活動を始められました。今の自分があるのは、皆様のおかげ。という謙虚な心の持ち主で、「**尾島春夫の人生に悔いなし**」と書かれた張り紙が自宅に貼られていました。65歳まで元気に働き、恩を返すことに残りの人生を使うと決めた尾島さんの人生には一点の後悔もないといえます。自らの人生を生かされている尾島春夫さんの人生を表しているように感じました。

## 「笑う門には福来たる」

尾島さんは冗談もよく言われるようです。**自分が笑えば周りも笑顔になる**。笑顔のそばには良いことが舞い込んで来るというお考えからいつも笑顔を大切にされていると語られていました。「**対価物品飲食は受けない**。」ボランティア活動は「**全て無償で行う**」というのが尾島さんのポリシーです。被災者の方から家に上がってお風呂に入るように勧められた時も、小雨の中傘を渡された時も、お礼は一切受け取らない一貫した態度で対応されていました。

七十八歳とは思えないパワフルな尾島さんですが、山口県での児童救出活動後はそのまま大分県まで車で戻ったそうです。夜八時頃に山口県を出発し、下道で六時間かけて大分には翌日午前二時頃に帰宅したといいます。それでもテレビの取材に変わらぬトーンで丁寧に答えられています。尾島春夫さんのご健康とご活躍をお祈りしたいと思います。

